

東京地学協会第 11 回海外巡検報告 —この旅でしか味わえない感動—

藤 原 早 絵 子*

Geological Field Trip to New Zealand: A Great Impression That Nothing Else Could Make

Saeko FUJIWARA*

わたしは、昨年の秋から、大学院を休学してワーキングホリデービザを用いて、ニュージーランドに長期滞在しています。大学の学部生のときから地学を専攻しており、火山地帯や変成岩帯、氷河地形といった変化に富むニュージーランドの自然に興味があったことが、ニュージーランドを選んだ理由のひとつです。そのため、幸運にも東京地学協会の旅行の目的地がニュージーランドと知った際は、ニュージーランドの地学を野外見学から知ることができるまたとない機会だと思い、特別に現地から参加させていただくよう申し出ました。旅行が終わった今、丁寧な解説つきの野外見学、地学を愛する方々との出会いは、この旅行ならではの貴重な経験であったと感じています。

旅行日数が8日間という限られた日程のなかでありながら、ニュージーランドの地質史に裏付けられた変化に富む自然を、北島・南島ともに堪能することができました。

北島では、ロトルアの泥火山、巨大な火山湖のタウポ湖、ワイラケイ地熱発電所といった見学地で、沈みこみ帯に付随する活発な火山活動を実感することができました。また、ウェリントン付近では、見事な断層地形（断層面を境に山と平地に分かれている）を観察しました。実は、この付近はこの旅行前にも訪れたことがあったのですが、恥ずかしくも、断層地形に気づかずだったので、その存在を知ったときは、新しい世界が広がった

ような感覚を覚えました。

一方、南島の南西部から北東部では、プレートすれ違いで生じている、サザンアルプスの美しい山岳風景を味わいました。それだけでなく、野外見学や車窓からの露頭観察によって、サザンアルプスを形成している岩石（グレイワッケ、変成岩）についても知ることができました。サザンアルプスで最も美しかったのは、やはりマウントクックだったのですが、マウントクックが最高峰である理由—変成度の比較的低い岩石で形成されているため—のお話は、その雄姿を何倍も感動的なものにしてくれました。さらに、サザンアルプスを境に植物相が変化していることも学びました。タスマン海からの湿った空気の影響で、サザンアルプスの西側は湿潤気候、東側は乾燥気候が卓越しているためです。西から峠を越えると、ビーチの森が消えて、タソックの草地が広がっていくのは、とても興味深い変化でした。特に感激したのは、太平洋プレートとオーストラリアプレートの境界の露頭を見学できたことです。地球の活動を証明する貴重な現場に実際に立っていると感じ、とても興奮しました。また、氷河期に形成された氷河地形も見応え十分でした。礫が積もったモレーン堆積物や氷河が削った土砂で編み紐状に分かれている河川を見学した際は、氷河が岩石を削る力のすさまじさを思い知りました。ミルフォードサウンドでの数段階に分かれている

* 名古屋大学環境学研究科地球環境科学専攻

* Department of Earth and Environmental Sciences, Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University

U字谷（氷河期が訪れた回数を記録している）、そこをつたって白糸のような滝が流れ落ちているのを見た際は、地球の長い歴史が作り出した風景の美しさに感動するばかりでした。

この旅行で知見を広げることができたのは、河内先生、村岡先生の丁寧な解説のおかげだと思います。見学場所はもちろん、車窓に広がる景色に対しても、常に熱心に説明してくださいました。それだけでなく、河内先生のニュージーランドの社会や文化に関するお話も、聞き応え十分でした。大学生への無償の奨学金や公立病院制度（医師の公務員化、無料の医療費）等、以前のニュージーランドの社会福祉には、大変感心した一方、近年の行政改革によって、それらの社会福祉に綻びが生じていると聞き、とても残念に思いました。

さらに、参加者の皆様との出会いもとても素晴らしいものでありました。実をいいますと、地学を学んでいる学生が参加する旅行だと思っていたので、空港で皆様を出迎えたときは、わたしの両

親よりも年上の方々だったので、大変驚いたとともに、失礼にも、「地学に興味がある方々なのだろうか」「普通の団体観光旅行になりはしないか」と勝手に不安さえも感じていました。しかしながら、地学に対する興味や好奇心がとどまることを知らないくらいあふれている方々ばかりで、この不安はすぐに吹き飛ばされました。何度も先生に質問されたり、熱心に露頭を見学されたり、「死ぬまで地学をやるわ」「日本全国の露頭を見たい」と生き生きと語る参加者の皆様の姿はとても印象的でした。それと同時に、地学を学ぶことのかげがえのない魅力を、改めて参加者の皆様から教えられたように感じます。

最後になりましたが、河内先生、村岡先生、近畿日本ツーリストの皆様、すばらしい旅行を企画・運営してくださり、ありがとうございます。参加者の皆様、楽しく貴重な時間をありがとうございました。今後も、東京地学協会の旅行が、多くの地学ファンを魅了しつづけることを期待しております。